

# 京大病院

## 消毒液誤注入で死亡

### 17歳女性患者 人工呼吸器に

京大病院(京都市左京区、本田孔士病院長)で、入院中の女性患者(17)が使っていた人工呼吸器に誤って消毒用エタノールが注入され、この患者が中毒死していたことが7日、分かった。病院から届け出を受けた京都府警川端署は、医師や看護婦らから事情を聴くなど、業務上過失致死の疑いで捜査を始めた。病院側はエタノールの注入が分かった後、急性アルコール中毒の対症療法をしていなかった。東京都立広尾病院に入院中の主婦が昨年2月に点滴の誤投与で死亡した事

故で、医師ら9人が3日、同容疑などで書類送検されたばかり。高度な医療レベルを誇る総合病院での相次ぐ医療ミスに、管理態勢を問う声が高まりそうだ。

京大病院の説明によると、女性患者の人工呼吸器には、乾燥した空気が肺などを痛めるのを防ぐため、加温加湿器が付けられており、定期的に蒸留水を注入していた。2月28日午後6時ごろ、蒸留水を入れた台成樹脂製のタンク(4リットル入り)を、巡回の看護婦が誤ってエタノール入りのタンク(5リットル入り)に交換。3月1日午後11時ごろに気付くまでエタノールの注入を繰り返し、患者は2日午後7時54分に死亡した。蒸留水のタンクは8時間に2〜3回、看護婦が5リットル

リットの注射器を使ってタンクから取り出し、加湿器に補給。少なくなったら新しいタンクに取り換えていた。

病院側はエタノールの誤注入に気付いた後、すぐに蒸留水のタンクと取り換えたが、急性アルコール中毒の対症療法は行わず、感染症対策の抗生物質の静脈注射を打っただけだった。

病院側は9日、川端署に

届け出、司法解剖で死因はエタノール中毒と判明した。  
【大平誠、一色昭宏】

京大病院人工呼吸器エタノール事件  
府警捜査/病院会見  
2000年3月8日 毎日新聞